

科研バックエンド問題研究会
「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」
第7回研究会

「高レベル放射性廃棄物の地層処分と科学的有望地の問題点」

主催: 早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

共催: 早稲田大学アジア太平洋研究センター(WIAPS)

1. 趣旨

東日本大震災・福島原発事故をうけ、高レベル放射性廃棄物(HLW)の最終処分について、国は2015年に科学的有望地を社会に提示し、国が前面に立って地方自治体に調査受入れを要請する方針を決めた。科学的有望地の要件・基準は、地層処分技術WGにより取りまとめられたが、その示し方や位置づけなどについては議論が続いている。このため、2016年中に公表予定であった科学的有望地の提示は先送りされた。

科学的有望地というのは科学的に「回避すべき範囲」や「回避が好ましい範囲」を除いた残りの地域を意味するが、当初の検討方針であった社会科学的観点が見えないなどの不確実な要素が多い。

以上の状況をふまえ、今回の研究会では、地層処分の科学的有望地の提示アプローチをどのように考えるべきかについて、鹿児島大学の井村隆介准教授(火山学)を招いて議論を行う。議論を踏まえ、科学的有望地などのバックエンド問題を含む、今後の日本の原子力政策のあり方について考える。

なお、本研究会は科学研究費補助金・基盤研究(B)(16H03010)「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」(研究代表者: 早稲田大学教授・松岡俊二、平成28年度～平成30年度)に基づくものである。

2. 日時・会場

日時: 2017年2月20日(月) 18:00～20:00

会場: 早稲田大学(早稲田キャンパス) 19号館(早大西早稲田ビル) 713会議室(7階)

3. 内容

司会:

松岡 俊二(早稲田大学アジア太平洋研究科・教授)

報告:

井村 隆介(鹿児島大学理工学研究科・准教授)

「地層処分における科学的有望地の考え方と問題点: 火山学の見地から」

コメント:

竹内 真司(日本大学文理学部地球科学科・准教授)

井上 弦(神奈川県農業技術センター・技師)

4. 申込先: 会場設定などの関係上、参加を希望される方はメールで事前連絡ください。

早稲田大学アジア太平洋研究科・松岡研究室

smatsu@waseda.jp

<http://www.f.waseda.jp/smatsu/>